

ベトナム政府主催  
女性・平和・安全保障(WPS)国際会議  
宇都外務副大臣ビデオ・メッセージ

2020年12月8日

御出席の皆様、外務副大臣の宇都隆史です。本女性・平和・安全保障(WPS)国際会議を主催するベトナム政府と国連に敬意を表します。本日は、パネル・ディスカッション「WPS 行動計画のデザインと実施」において、日本政府を代表しメッセージを寄せることができ光栄です。

日本は、2015年にWPS行動計画を策定しました。その際、関係省庁や市民社会と協力して幅広い意見を聴取しながら作業を進めた結果、国内外における取組や、災害対応も含めた包括的な行動計画を策定することができました。実施においては、定期的にモニタリングを行っており、外部有識者による評価を受けて報告書も作成しています。

WPS行動計画の実施について、日本は、参画、予防、保護、人道・復興支援の4分野で、国内外において具体的な行動を進めてきました。一例を挙げると、G7WPS パートナーシップ・イニシアティブの下、日本はスリランカを支援し、スリランカの国家行動計画の策定の支援、国民和解と和平プロセスにおける女性の参画を進めてきました。また、国際機関やJICA等を通じて様々な支援を実施しており、中東・アフリカの紛争影響国での女性の保護や暴力の被害者に対する支援、経済的エンパワーメントのための支援、紛争下の性的暴力の予防のための警察や軍、司法の能力強化、PKO 要員の訓練など、支援の幅は多岐にわたります。

日本は、国際的な枠組みにおいても、様々な支援を行っています。国連の紛争下の性的暴力・法の支配に関する専門家チーム (Team of Experts on the Rule of Law/Sexual Violence in Conflict, TOE) の活動を積極的に支援し、2014年以降、コンゴ民主共和国、ソマリア及び中央アフリカ、イラクにおける TOE のプロジェクトに対し 950 万ドルの財政支援を行ってきました。また、日本は、2018年から国連女性機関のイニシアティブの下、アジア、アフリカ、中東における平和・安全保障・人道支援の推進を目的とした活動のために約 880

万米ドルの資金協力をしています。さらに、本年、日本は、2018 年ノーベル平和賞受賞者のデニス・ムクウェゲ医師とナディア・ムラドさんが創設した紛争関連の性的暴力の生存者のためのグローバル基金にも 200 万ユーロを拠出し、積極的に支援しています。また、日本が議長を務めた 2019 年の G20 大阪サミットでは、紛争予防・平和構築における女性の役割の重要性を首脳宣言に明記しました。

現在、新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大している中で、その影響を最小限に抑え、紛争の影響を受けた人々を含む全ての人々が、尊厳をもって生活できるよりよい社会を構築することが私たちに求められています。日本は、この危機を好機に変えるため、国際社会や市民社会と連携しながら本分野に引き続き取り組んでいきます。

御清聴ありがとうございました。本日の会合が昨日に引き続き実りあるものとなることを祈念します。